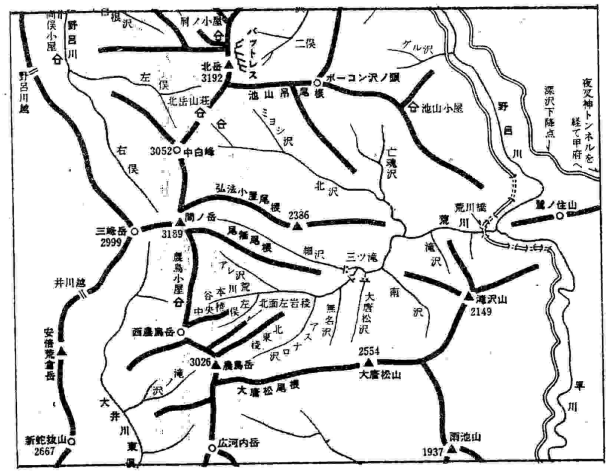
と、闇の中にヘッドランプを揺らしながら毛利、山口が到着した。5人揃ってひと安心。少し酒を飲み、大いに食って英気を養う。外は満点の星だった。

12月30日（晴のち雪）
気温マイナス17度



ヘタイム▽起床1：50～出発3：15ー峠5：40ー北沢監視小屋6：20ー2386m峰11：00（泊）

簡単な朝食を済ませパッキングも終わり出発。ところが、杉澤が「アッ」と大声を出した。エスパースのポールを忘れてきたことを皆に告げた。忘れてきたと言われてもここから引き返す訳にもいかない。協議したが、何とかして行こうという結果になった。

荒川橋からはどこかのパーティーだろうか、一条のトレースが闇の中に伸びていた。私達より早く入山したパーティーがいる様だ。北沢監視小屋の手前で夜が明けた。

ここから雪も多くなり、弘法小屋尾根取付で再びトレースに出会う。前のパーティーは荒川谷を遡行してきたようだ。全員快調。いよいよここから本格的な登りが始まる。

1時間程登った所で下山してきたパーティーに会う。京都医大山岳部で間ノ岳をピストンしてきたとのこと。天候はこの所ずっと不安定で良いのは今日位ですと言う。私は天候のことより上部のハイマツ帯が気掛かりでそれを聞くと、「イヤー、別に」と言うだけだった。私は「フゥーン」と思った。やっぱり雪の量がかなり多い。つまり弘法小屋尾根は東側なので風が弱く降った雪がそのまま積もっているのだ。そして「これからですネー」の言葉が胸にズシッときた。そうだ確かにこれからだ・・・。

この頃より農鳥岳付近から雲が活発に流れ北岳にガスがかかり始めた。「こりゃあマズイ」と内心つぶやく。案の定しばらくして雪がチラチラしてきた。予定より早く2386mに着いた。だが天候は不安定だしパーティーも疲れているので本日はこれまでとする。夕食は荷上げのおかげで大変おいしい食事をとれた。食べれば元気もでる。軽くホワイトを飲んでシュラフにもぐる。16時、23時と天気図をとるが良い材料は見当らなかった。

12月31日（雪のち風雪）
2386mマイナス14度
弘法小屋尾根マイナス20度

ヘタイム▽起床24：00～出発2：00ー間ノ岳10：50ー農鳥小屋12：25（泊）

天気図を取った後少し横になったが、目が冴えて眠れないので24時起きてコンロに火を入れる。テントが暖まると毛利も起きたので2人でコーヒーを飲む。毛利はあまり甘いものが好きでないらしく甘すぎるコーヒーに閉口している様だった。隣のテントも起きて朝食の支度にかかる。今朝は野菜、肉、インスタントライスを混ぜてオジヤを作る。毛利持参の梅干しがうまい。2時ちょうど2386mを後にする。外は雪がチラチラと降っていた。気温は昨日程なくマイナス14度で暖かい。樹林帯をヘッドランプの灯りを頼りに進む。雪が多いせいか夏の面影は全くなく、大体どこを歩いているのか見当がつかない。しかし、無雪期のようにブッシュに進路を妨げられる訳でなく快適そのものだった。樹林帯を抜けると雪が多くなりラッセルが厳しくなる。ルートを外すと胸までもぐり登れなくなる。